

自然災害発生時におけるBCP業務継続計画

法人名	株式会社 グローリアツウェンティーワン		
種別／施設	介護保険サービス(通所介護) 職業訓練校 その他 教育業 外国人教育センター		
代表取締役	江端 ひとみ		
所在地 1	名古屋市中川区打中 2 丁目 105 番地 グローリア21 本館	電話番号	052-354-6211
所在地2	名古屋市中川区***** *****寮	電話番号	携帯(ピンク) 090-****-**** 携帯(グリーン) 090-****-****
所在地3	名古屋市中川区***** *****寮	電話番号	052-****-**** 管理人 090-****-**** 管理人 090-****-**** 052-****-****
スタッフ寮	名古屋市中川区*****		住居人の LINE

※令和 6 年 4 月 1 日 施行

Ⅰ.総論

本計画は、大規模地震災害等からご利用者及び学生・職員の生命を守り、通常業務を早期に再開させることを目的として策定する。

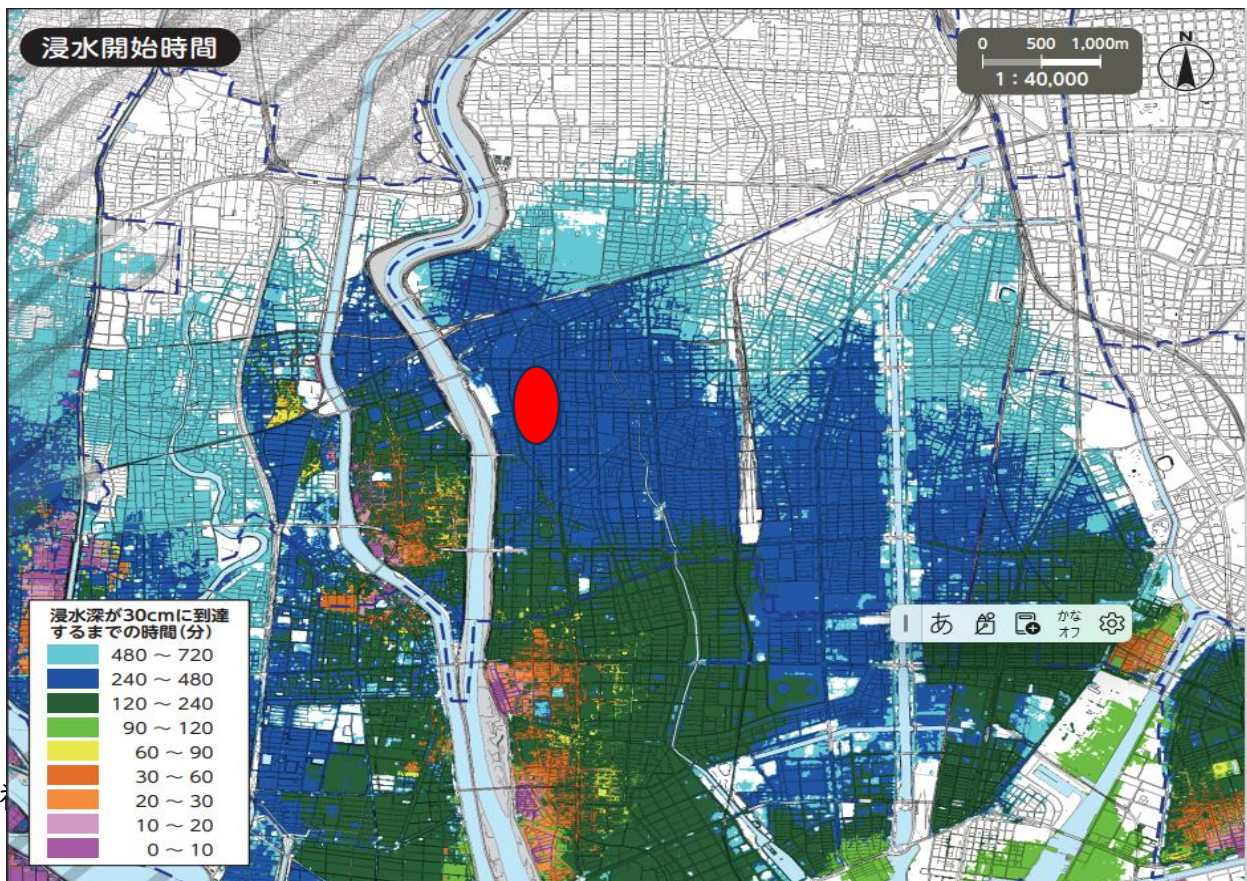
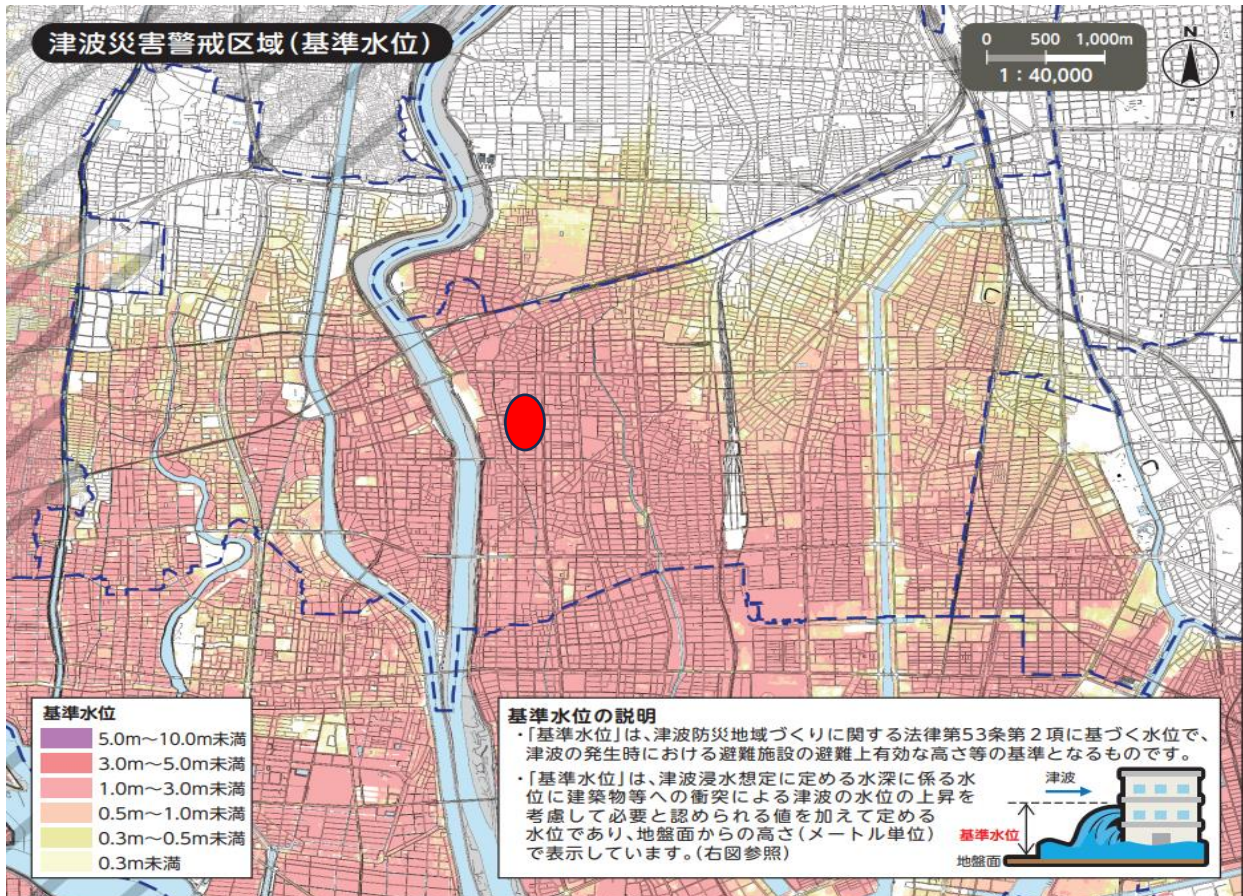
(1) 基本方針

①. 人命を守ること、安全を確保することを最優先とする
職員、ご利用者・学生の安全確保を最優先に行う。また、利用者、職員の安全な避難場所及び復旧作業等に必要な場所を確保する。
②. 人員・資機材の横断的調整
人員・資機材の確保・配分については、会社内で横断的な調整を行う。
③. 社会的責務の遂行を基本とする
速やかに事業継続計画（BCP）を発動し、通常業務継続のために必要な体制をとるとともに、活用可能な資源を最大限に活用する。
④. 関係機関との連携を図る
・愛知県及び名古屋市を始めとする関係機関と連携を強化する。
・地域の一員として、地域住民との協調に努める。

(2) 推進体制

平常時の災害対策の推進体制		
主な役割	部署・役職	
統括責任者	代表取締役	江端 ひとみ
BCP 推進責任者	専務取締役	浅井 あゆみ
情報連絡班・避難誘導班	(介護・職員) 常務取締役	美島めぐみ
	(外国人教育)	スタッフ A
	(日本人学生)	スタッフ B
災害対策本部体制（BCP を発動し事業継続を実施する体制）		
主な役割	担当者	代行者
責任者（統括責任者）	江端 ひとみ（介護福祉士）	浅井 あゆみ（看護師） 江端 朗夫（介護福祉士）
副責任者（BCP 推進責任者）	浅井 あゆみ（看護師）	美島 めぐみ（看護師）
救急・医療支援	同上	
介護班		
栄養・食料調達班	スタッフ C	スタッフ D

リスクの把握 ハザードマップなどの確認



●地震災害南海トラフの巨大地震の場合の想定：名古屋市ハザードマップ2023年度版

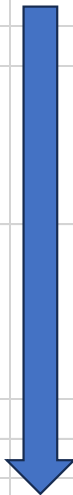
地震の規模	マグニチュード9.0	
中川区の最大震度	震度7	
津波被害	到達時間	最短96分
	津波水位	最高3.6m
	津波高	最大2.4m
	浸水範囲	中川区全域

【災害発生時に想定される影響】

災害と経緯	直後(夜勤帯)	6時間後	1日後	3日後	4日後	7日後
出勤率	10%	10%	10%	正社員男性 +役員	正社員男性 +役員	正社員(男性・女性) +役員
出勤率とその目標		生命を守るため必要最低限の人員	食事・排泄中心、その他は減少又は休止	一部減少又は休止	ほぼ通常	ほぼ通常
営業時間内に災害が発生(在庫率)	100%	70%	40%	10%	0%	不明
夜間など営業時間外に災害が発生(在庫率)	100%	90%	70%	20%	10%	在庫正常
電力	停電(手動の発電機あり 場所:3階大ホール前廊下)				復旧見込	復旧
水道水	断水 飲料水は備蓄水を使用 (3階大ホール前廊下・1階半日デイ相談室に備蓄) 前のコンビニさんに協力をあおぐ				復旧見込	復旧

エレベーター・冷蔵庫・洗濯機	停止 電力復旧待ち				復旧見込	復旧
業務基準	職員・入所者の安全確認のみ	安全と生命を守るための必要最低限	簡易な食事、排泄中心であり、その他は休止	備蓄品の炊き出し、復旧の範囲で調理再開	食材の納品状況、炊き出し、光熱水の復旧の範囲で調理再開	
営業時間内に災害が発生（食事）	原則水分補給のみ 状況に合わせて備蓄より提供		備蓄食の提供	朝・昼・夕食の提供	通常の食事を提供 (株)マルコシとの連携により	
生命維持に欠かせない内服薬だと看護師が判断する場合、服薬を介助・フォロー						
夜間など営業時間外に災害が発生（在庫率）	原則水分補給のみ 状況に合わせて備蓄より提供		備蓄食の提供	朝・昼・夕食の提供	通常の食事を提供 前のコンビニとの連携を試みる	
入浴・入浴介助	中止		状況に応じて清拭を行う		復旧次第、通常の入浴を提供する	
排泄・排泄介助	水洗トイレは使用不可 (トイレ内で便器と、ポータブルトイレにビニルをつけて対応・窓を開け臭いに配慮する)				復旧見込	復旧
洗濯	中止			中止 やむを得ない場合は おむつやパットを提供し 交換		中止 やむを得ない場合は おむつやパットを提供し 交換
シーツ交換	中止			やむを得ず実施する場合はアサヒ商会のシーツを使用する(2階)		やむを得ず実施する場合はアサヒ商会のシーツを使用する(2階)
情報共有	電話・FAX その他平時使用する通信機器すべて停止 紙とペン・養生テープによる貼紙、携帯電話による SNS 発信他			復旧見込		復旧
冷暖房	実質使用できないものとする。 最終手段として以下を備えている(「4備蓄」参照) 大量の布団や毛布、バスタオル等を備えている			復旧見込		復旧

		冷房機能:大型扇風機、車両の冷房を利用 暖房機能:大型ファンヒーター&石油ストーブ			
--	--	--	--	--	--

昼に地震が発生した場合					
地震発生					
窓ガラスから対象者を離し、照明器具の少ない天井の下へ移動する 机などの下に頭を隠し、揺れがおさまるのをまつ トイレ内、EV内、浴室内、更衣室内などすべての個室に取り残された人がいないか確認する。					
館内のテレビをつけ震源や規模・「津波の予想」など情報収集する					
非常伝言板 火元の確認、初期消火、消防への通報、避難誘導					
館内放送 ・LINE「ハートピアグループ」を活用した「グループ通話」・呼びかけ					
					
	火災		津波		
	火元を避けて避難実施		津波到着時間が直後の場合		津波到着時間が2時間後の場合
	119番通報		3階大ホールへ移動することを強く促す（任意）		3階大ホールへ移動することを勧めるが、帰宅希望者は帰宅することを止めない。
					
					
負傷者					
看護師要請とその場に居合わせた者が必要と考える 応急手当を実施					
その場に居合わせた者の判断で119通報					
つながる		つながらない			
指示通りに支援		その場に居合わせた者の判断で必要な支援を行う			
情報連絡班は、統括責任者・BCP推進責任者に確認しながら、指示を出す					

(4) 備蓄品

所在地 1: 名古屋市中川区打中 2 丁目 105 番地
(株) グローリアツウェンティーワン・ハートピアあさい 館

分 類	品 名	内 容
食糧等	非常食 (レトルト、缶詰、かんぱん、羊羹など)	60 名×3 日分
	ガスコンロ ガスボンベ ※避難と同時に 3 階へ上げる事。	4 台 10 本
	水	29ℓ×16 箱 464ℓ
	お米	20kg×3 袋
	ラジオ	2 台
照明等	ポータブル発電機小	2 台
	懐中電灯	4 台
	乾電池	単 1 20 本、単 2 20 本、単 3 40 本、その他 2 階事務所に多
冷暖@房機器	ガスボンベ	3 台
	携帯ガスストーブ	3 台
	電気ストーブ	1 台
	リビング扇風機 (床置き)	大型 4 台 家庭用 10 台
医療器具等	救急セット	2 セット
	デジタル血圧計、体温計、パルスオキシメーター	ハートピア各フロアに常備
	吸引機、吸引カテーテル	ハートピア 2 階に常備 ※蓄電器と共に移動する事。
	アイスノン	3 個
医薬品衛生用品	オムツ (パッド)	400 枚
	オムツ (テープ止め)	60 枚
	オムツ (パンツ型)	200 枚
	使い捨てプラスチック手袋	20 箱

	ペーパータオル	100 袋
	使い捨てマスク	10 箱
	トイレットペーパー	100 ロール
	車いす	10 台
	ギャッジベッド	10 台
	折りたたみベッド	6 台
	リクライニングチェア	5 台
	ポータブルトイレ	2 台
	アルコール消毒・およびポンプ	各階に設置
	おしぼり(納品 アルピッティ)	150 本
	清潔なタオル・シーツ(小山商会)	20 セット
その他の物資	マットレス	25枚
	簡易パーテーション	6 個
	掛け布団・掛毛布	30枚以上
	紙・マジックペン・養生テープ	10セット
	ビニール袋	

学生寮：アンビシャス館 打出寮 本宅寮 スタッフ寮 各寮に1セット配置 ※下に1セット分を表示

分 類	品 名	内 容
食糧等	非常食(乾パン、あめ、お菓子等)	1 缶
	水	1.5ℓ×5 本
照明等	乾電池	単 1 20 本、単 2 20 本、単 3 40 本
	懐中電灯	4 台
救急セット	救急セット(ガーゼ・消毒薬等)	1 セット
	アルコール消毒剤	1 つ
消耗品	使い捨てプラスチック手袋	3 回分
	ペーパータオル	1 つ
	使い捨てマスク	5 枚

トイレトペーパー	1ロール
携帯トイレ	1つ

(5) 研修・訓練の実施

全体 : 毎年防災訓練を2回実施する。

年間計画や職員会議、平時の LINE 連絡等を通じて周知していく。

日本人学生: 入学時のオリエンテーションで実際に避難経路を歩いて確認。説明を受ける
館内の避難経路図、消火器などの場所を掲示した紙を配布する。

外国人: 入国時のオリエンテーションで実際に避難経路を歩いて確認。説明を受ける
館内の避難経路図、消火器などの場所を掲示した紙を配布する。

また研修として「消防講習」を実施する。

なお、平時より耐震対策を講じ、頭等に重たいものが落ちにくいよう対策をする。

(6) 衛生面(トイレ等)の対策

被災時は、汚水・下水が流せなくなることを想定する

男女別のトイレ空間を活用する

トイレの便座にビニールをかけるなどして、便座を活用する

数が足りない場合は、ポータブルトイレにビニールをかけて活用する

プライバシーに配慮し、パーテーション等を設置する

寒さにもよる窓をあけ、常に窓を開け換気する

① 汚物対策

ポータブルトイレ使用後、凝固剤を入れ密封する。

陰部・臀部を拭いたペーパーは、汚物とは別の袋を準備し、そこへ捨てる。

手洗いはできないため、手指消毒ポンプを設置する。

(7) 資金手当て(災害に備えた資金)

現金 20万円以内

2.緊急時の対応

(1)

① BCP発動基準

以下の指標を総合的に勘案して、事業の継続に著しい影響があると判断される場合

- ・交通網の寸断
- ・職員およびその家族の被災・負傷、自身の子どもや両親（高齢者）等の安否確認により出勤できない、及び勤務し続けられない職員が多発した場合
- ・所有建物や設備等の被害状況
- ・電気・上下水道・ガス・通信等の重要インフラの途絶

◎ 各寮 スタッフ寮にいる学生は 歩いて本館に集合する それができない時は
管理者たちが 迎えに行くこととする。

② BCP解除

上記指標等の障害が回復し、事業への支障が解消したと、統括責任者が判断した場合に解除する。

(2) 安否確認

全利用者・及び職員の安否確認

【安否確認】

地震・火災・津波発生直後：

たびたび同じ部屋等をチェックしないで済むように、安否確認が済んだ部屋の、扉は閉めない。

本当に全員が避難できたか、下記の書類を使って最終点呼する

介護利用者様：提供表

職業訓練生・外国人学生：出席簿・その他書類

その他顧客：事務所「日報」

職員：シフト表

必要な場合、災害伝言ダイヤル「171」を活用する。

(3) 職員の参集基準

施設の被害状況に応じて「災害対策本部」の判断による。

「BCP 発動基準」に準ずる震災が発生した場合

営業時間内に発生した場合

自宅が被災した場合、家族親族の安否が不明の場合等は、参集できない事態となる。

職員各々の自己判断とする。

営業時間外に発生した場合

原則、介護を要する利用者はいないことを想定し、まずは自身と家族の安全の確保と、安否確認を行うこと。統括責任者の判断により必要な時期に、参集をかけるため、情報連絡班からの指示を待つこと。なお参集の名古屋市内に住む正職員のうち特に男性については、早期の参集を集う可能性が高いため待機すること。

(4) 施設内外での避難場所・避難方法

避難場所	地震により建物外壁の損傷落下、雑壁の損傷、主要構造物の損傷などにより避難の必要がある場合は、各利用者の帰宅が基本となる。自宅も震災により生活が困難な場合は、各事業所と連携の上で「避難所」として指定された施設の協力を得ることとする。
------	---

(5) 職員の管理

① 休憩・宿泊場所

震災発生後、全利用者と同様の部屋で、まずは避難生活を送る。

避難生活が長期に及ぶ場合、全利用者と別でかつ男女別の部屋を設置できないか検討するが約束できるものではない。

所在地 1～所在地4までの宿泊場所で、安全と判断した場所・階を使用する。

② 勤務シフト

災害発生後、職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性がある。参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むように検討する。

(6) 復旧対応

① 破損個所の確認

利用所の安否確認を最優先、同時に大きな破損個所を確認する。

② 業者連絡先一覧の整備

ホームページへの情報開示にて 非掲載

この自然災害発生時におけるBCP(業務継続計画)は令和6年4月1日より実施する。

<更新履歴>

更新日	更新内容
令和6年4月1日	作成